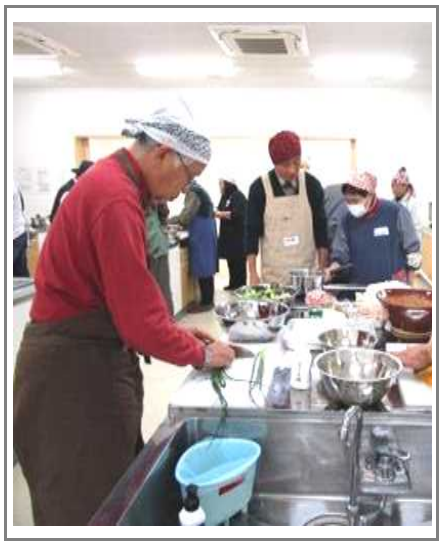
特に力を入れていることや特徴的な取組は何ですか？背景や実施上のポイントなどと合わせて教えて下さい。



●住民が活躍できる場づくり

地区防災

愛媛県の支援もあり和霊校区でも数年前から防災士の数が増え、現在74名が在住しているが、その力を発揮する場面がなかった。また近年南海トラフ地震の発生が危惧されていることもあり、５年前から防災士に呼びかけて校区単位の防災研修会を始めた。市役所、消防署等と連携し連合自治会（自主防災会）、公民館が中心となり、年に１度は大規模、または小規模の研修会を実施し、住民の防災意識の啓発と交流、防災士同士の繋がりができた。

各団体との連携

宇和島市食生活推進協議会和霊支部では食生活改善や郷土料理の伝承に取り組んでおり、子ども教室や男の料理教室で、おやつ作り・郷土料理や栄養バランスを考えた料理の指導に当たってもらっている。また、愛護会とは長年共催事業等で協力して児童の健全育成に努めており、少子化等による会員減少についても相談に応じている。（写真：男の料理教室）

公民館としての様々な取組によって得られた、成果や効果にはどのようなものがありますか。（できれば箇条書きで）

特徴的な取組による成果・効果

●防災事業に取り組んできた結果、令和元年度宇和島市の地区防災計画のモデル地区に指定され,防災士の活躍の場が広がるとともに、小中学校を巻き込んでの事業展開を行い、防災で地域に「つながり」が生まれた。

●念願であった防災士連絡協議会が発足、自主防災会・公民館との連携が期待される。

これまでの取組全体による成果・効果

●世代間交流が進み、公民館の認知度も上がった。

取組の改善・検証を行う仕組みとその方法について教えて下さい。

●関係団体(自治会・小学校・PTA・愛護会・地区社協・地域づくり協議会)の代表者と学識経験者10名で構成する公民館運営審議会を年間7回程度開催

●運営協議会を事業の前後に開催し、前年度の反省を踏まえ検証・改善を行っており、PDCAを意識した公民館運営を行っている。また、校区に関する多様な意見を出し合いながら、公民館として取り組めることがないか検討している。

●地域学校協働活動については、校区内の和霊小学校運営協議会で行っている。（館長、主事が委員として参加）

新たに、また、継続して取組を行う上で、苦労した(している)こと、どう乗り越えたか(ようとしてるか)を教えて下さい。

●防災事業を行うなか、各地区の防災意識や結束力にばらつきがあり、参加率に差があるという問題が浮き彫りとなった。今後どのように地区の足並みを揃えていくのかという課題を抱えるなかで、「地区防災計画事業」がコミュニティのあり方を考えるきっかけにもなった。今後地区防災計画を更新していくうえで、平素から住民が積極的に地域に関わり新たな交流が生まれるように仕掛けていきたい。

公民館として大切にしていること、大切にしている考えなどを教えて下さい。（キーワードは赤字）

「まずやってみよう!」「住民が主役」を合い言葉に事業の展開を図っている。これまで続けてきた事業「市民運動会」「どんど焼き」等では各団体や住民代表による実行委員会で意見を出し合い、伝統を継承しながらも参加者の意見を取り入れて時代にあった形に変化させてきた。新事業を始める際も多様な意見を取り入れながら実施し、時には失敗もあるが、失敗は成功への近道と考えそれを糧として次へと繋げてきた。公民館は地域と共に歩み主役である住民に寄り添う黒子であり続けたいと考えている。（写真：どんど焼き）

最後に、これから公民館をどのようにしていきたいと考えていますか。次の仕掛けやビジョンについてもぜひ教えて下さい。

昨年度改築移転したことで、以前より格段に利用しやすくなったため、新規利用団体が増えている。このチャンスを逃さずに人材発掘や連携の道を探りながら、和霊公民館の新たなスタイルを築いていきたい。また、防災と並んで「地域づくり」という課題があり、数年前から「和霊地区地域づくり協議会」(公民館主事も担当職員で参加)と協力して地域の活性化を図っている。その一つに特産の柿を使っての加工品の開発という目標があり一昨年から県内の団体等の視察を始めた。地域の高齢化等課題は多いが、諦めずに次の世代へ引き継いでいきたいと考えている。（写真：落成記念式典でのもちまき）